

グエン イニイ
ベトナム出身
麗澤大学 国際学部国際学科

歌舞伎の楽しさ

3年前に、母国から日本へ帰るANAの飛行機の機内で、とても面白い映像を見ました。歌舞伎役者が機内の安全ルールについて説明する独特的な映像で、日本の伝統芸能・文化に触れながら、機内の安全ルールを楽しく身につきました。着物、音楽、芸能などの日本文化に非常に魅力を感じ、ぜひ、歌舞伎を見に行きたいと思いました。

しかし、歌舞伎というと「難しそう」と思えて、なかなか勇気が出ませんでした。そんな時、坂口財団のおかげで、勇気を出して、やっと歌舞伎を観てきました。見る前は、全てがわからないといけないのかと思いましたが、そんなことはないと実感しました。また、話の内容も分かりやすく、解説などもあってとても理解しやすかったです。歌舞伎を見に行くのが初めての私は、この日を楽しみにしていました。

歌舞伎の舞台を初めてみてとても感激しました。舞台の転換が大仕掛けで、圧倒されました。また、花道や黒御簾(くろみす)などがあり、歌舞伎の舞台の独特性を実感できるようになりました。そして、江戸時代の庶民の生活を写美的に描いた「人情嘶文七元結」を観て、まるで江戸時代に戻ったかのようで、劇の世界に入り込みました。「人情嘶文七元結」の内容は落語から来た演目なので、とて

も面白かったです。涙と笑いのあるいい話だから、若者も気楽に楽しめると思います。また、心温まる娘お久の孝行心に感動しました。

私が歌舞伎を観劇する時、よく興味があるのは「女形」です。舞台で女性の役割を果たすのに男性役者が演じます。女形が出てくると、ぱっと舞台が華やかになると思います。役者の柔軟な動きの演技と音楽を共有し、美しい容姿や、たおやかな所作を見れば見るほど、その魅力に惹きつけられます。

「歌舞伎役者は、観客を驚かせて楽しませるように、新しい要素を取り入れ続ける」ということを授業で勉強しましたが、「人情嘶文七元結」を見た後、その通りだと思いました。日本の歌舞伎役者をとても尊敬しています。この日歌舞伎を見に来た人はとても多くて、驚きました。日本人は現代でも歌舞伎に興味を持つ人が多く、子供を連れて行く家族も多いです。日本人はいつも自国文化に関心を持っていると感じました。

日本の文化に接すれば接するほど、魔法の世界のように感じます。それで、どんどん私は日本の文化に対して親しみを感じて、いつの間にか日本の文化が大好きになりました。そして、その日本の美しい文化をたくさんの人々に紹介したいと思います。

以上

